



K.C. News

京都知福協だより

京都知的障害者福祉施設協議会
京都市上京区猪熊通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館202 <http://kyotifuku.jp> 発行人 矢野隆弘

- ◆ 社会福祉の原点「誰れのための、何んのための支援か」… 1
- ◆ 第37回近畿地区知的障害関係施設長等会議を開催して… 2
- ◆ 知的障害者福祉施設職員・身体障害者更生援護施設等職員研修に参加して… 3
- ◆ 第38回京都知福協「幼児のつどい」を終えて… 4
- ◆ 京都知福協風船バレーボール大会をふりかえって… 5
- ◆ シリーズこんにちは… 6
- ◆ シリーズがんばっています… 7
- ◆ 京都知福協地域支援部会研修会が開催されました… 8
- ◆ 知ってほしい! 「ジョブネット」の取り組み… 8



京都市やましな学園 新鮮野菜 火曜朝市▶



社会福祉の原点 「誰れのための、何んのための支援か」

京都知的障害者福祉施設協議会

副会長 樋口 幸雄



2014年我が国は国際障害者権利条約の141番目の批准国となりました。今後、現行の障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法等すべての障害関係国内法は、「障害者権利条約」に示された理念や原則との整合性を図るため見直されることとなります。また同条約は障害のある人が障害のない人と同等の立場に立つための支えや補いである「合理的配慮」について憲法に準ずる国内法として国に対してその責務を求めています。

2013年障害者自立支援法に代わって障害者総合支援法が新たに施行され現在に至っていますが、その第一条に障害者自立支援法で謳われていた能力や適性に応じた自立した生活を支援するという文言が削除され新たに基本的人権を有する個人としての尊厳にふさわしいという文言に変わっています。これは同条約の理念をふまえたものと言えます。

急速な少子高齢化時代の到来による社会経済状況（長期低成長時代における財源不足）の変化、発達障害をはじめ難病者など、その障害概念の変化による対象者の拡大などを背景に、障害のある方が地域の中で安心して暮らせる仕組みづくりが急がれています。

今後、こうした福祉ニーズの拡大にともない、民間企業等の参入がより一層すすむと思われる、そのサービスの質、内容についての評価やいわゆる公益法人とのイコールフットリングが大きな課題となってくると思われます。先般厚生労働省の「社会福祉法人の在り方に関する検討会」による報告書がまとめられました。その中で、公的責任の重い高齢・障害福祉分野にお

ける社会福祉法人の組織の見直しや、その非課税にふさわしい社会貢献、地域貢献が強く求められています。

こうした時代状況の中で、支援従事者一人一人が社会福祉事業の原点に立ち戻って「誰れのための、何んのための支援」かを、あらためて自らに問わなければならないのではないかと思います。

平成27年度京都府・京都市の福祉施策に対する要望と提言について（要望及び提言からの抜粋）

1. 事業全体

◆「第4期京都府障害福祉計画」検討の際には、障害当事者の実情をもとにした策定を

◆大規模災害対策では実効ある備えをすすめるよう指導を

◆福祉人材育成認証制度については、小規模事業所にも配慮した制度の推進を

◆65歳を超えた利用者の制度利用については柔軟な取り扱いを

2. 障害者支援施設

◆利用者の高齢化に伴う財政的支援を

◆強度行動障害支援者養成研修などの充実を

3. 日中活動系事業

◆就労継続B型利用に際してのアセスメントについて関係事業者情報提供を

◆専門職を配置できるシステム（リハビリネットワーク）の構築の検討を

4. グループホーム・地域生活等

◆夜間支援体制について、国に対して改善を

◆「親なきあと」の居住支援の場を確保していくためのプランを

5. 相談支援

◆専門員研修を年1回開催できるように

◆児童サービス等利用計画作成について踏み込んだ研修を

6. 障害児関係事業所

◆ニーズの違いに着目した事業所間の役割分担を明確に

第37回近畿地区知的障害関係施設長等会議を開催して

京都知的障害者福祉施設協議会

副会長 中西昌哉

冬の到来を知らせる寒波がやってきた12月2日〜3日、第37回近畿地区知的障害関係施設長等会議（2014年度）が、京都ガーデンパレスにて開催されました。参加された近畿各府県の施設長様達は184名。会場をいっぱいにして熱い議論が繰り広げられました。今回のテーマは「今一度、私たちの取り組みを振り返り、今後のあるべき姿を考える」でした。この背景には、今年度あちこちで話題となった「これからの社会福祉法人のあり方」検討がどの様になっていくのかという危機感があるといえるでしょう。

◀1日目 開会式の様子



日本知的障害者福祉協会 橋文也会長



中央大学法学部 教授 宮本太郎氏



プログラムの第1日目は、日本知的障害者福祉協会・橋文也会長から中央情勢報告をいただきました。続いて中央大学法学部教授・宮本太郎氏にご講演をいただきました。印象に残ったのは従来の支援モデルは、「まんまる元気な健康者がニーズのある方を支える」発想。しかしこれからの発想は「皆、どこか欠けのある人がニーズのある方と共に支え合うパターン」でなかるうか。そこに新たな雇用と居場所が出来てくるだろうというお話でした。

続いて登壇された社会福祉法人佛子園理事長・雄谷良成氏は、これまで取り組んでこられた事業をご紹介くださいました。聞く私たちにとっては、何だこれは！といったくなるほどのスケールでした。まず小さな町の廃墟に見えた古寺を法人が日中活動に使用し、地域の子供からお年寄りまで毎日のようにお風呂に入り、来たり、食事に来たりして寄り合う居場所に甦った。そして小さな町が活性化してきたというお話がありました。次



▲東田直樹さんの著作「自閉症の僕が跳びはねる理由」を紹介される雄谷氏

に紹介されたのがJR北陸本線の駅舎維持の例。さらに街づくりを視野にはじまられた「シェア金沢」は障害のある方もおられるが、高齢者もおられ、まわりからいろいろな方がやってこられるというお話でした。今年のハロウィンのエピソードからそのときの写真を映して雄谷さんは「利用者と住民ですけど、支えている側と、お世話になってる側と、どっちがどっちなのかとそう思います。」と語られたのが印象的でした。「人の生活を成り立たせているのは福祉だけではないという謙虚さ。種別をこえて、業種をこえて。過去にとらわれず時代・地域の変化を見極め、即応して創造する。」というのが今会議のテーマに対するまとめだっただけだと思います。

第2日目は、2つの分散会がもたれました。第1会場はシンポジウムで「社会福祉法人の在るべき姿とは」でした。ここに参加して感じたことは、「障害福祉サービスに株式会社やNPO法人も参入されており、社会福祉法人だけが優遇されて良いのかといった声を背景に、大きなうねりが押し寄せてきている。今までは法人が考えるべきことは施設の運営だったものが、これからは法人の経営が大切だということでした。第2会場では鼎談「福祉の原点から障がい児支援の歴史を振り返りながら未来へ」と題して、こちらも学びの多い議論がなされたと思っています。

今回の開催にあたり、京都知福協の各役員・研修委員の皆さんが要員として運営にあたって下さいました。2015年度には近畿地区職員研修会の開催が京都で予定されています。また力を合わせて各地からのご参加をお迎え出来ればと思っています。



▲2日目 第1会場シンポジウムの様子

知的障害者福祉施設職員・身体障害者更生援護施設等職員研修に参加して

障害者支援施設 ききょうの杜

支援員 高見嘉弘

10月4日(土)にこどもみらい館において行われました「知的障害者施設職員・身体障害者更生援護施設等職員研修」に参加させていただきました。

午前中は龍谷大学社会学部臨床福祉学 科教授の村井龍治氏を講師に迎え、「利用者主体の支援を考えるー理念に立ち戻った支援ー」といった題目で講義をしていただきました。

講義の中で2006年の障害者の権利条約の採択をはじめ2011年の障害者基本法の一部を改正する法律の施行、2012年の障害者虐待防止法の施行、2013年の障害者総合支援法の施行、障害者雇用促進法の改正、障害者差別解消法の成立等、障害者の自己決定を支える様々な制度が整備されました。しかし、制度といったハード面は整備されているが、利用者支援の面では整備されていないと話されていました。

私もまだ十分意思が尊重されていないと思います。尊重されているなら障害者の虐待なんて起こらないはずだからです。しかし、障害者虐待のニュースが時折報道されているのが現実であり、利用者の意思決定どころか人権までも無視した行為が行われているのが現実であります。

身近な事に関しても障害者の意思決定を尊重されていないケースはあると思います。本人の意見は無視され、保護者が家族がこうしておきなさいと言ったから仕方なく保護者、家族の言う通りになっているといった障害者の方も多いのではないのでしょうか。

私も障害者の就労に携わる事業所で働かせてもらっています。なるべく本人の意見を聞くつもりですが本人より保護者の意見を尊重してしまつこともあります。

そうではなく、重度の障害者の方であっても今回の話で出てきたニコニコマーク等の絵カードを利用したり筆談等のコミュニケーションツールを活用して工夫すればいくらでも意思を尊重出来ると話されていました。

午後からは日常の支援の中にある困難・不満などについて話し合うグループワークを行いました。各グループの中に施設長に入って頂き、ファシリテーター役してもらいKJ法を用いて話し合いを進めていきました。

私たちのグループでは
・ご利用者本人と家族との意思にずれが生じている。
解決方法として・・・

午前中に学んだこと（ご利用者に意思決定を尊重し利用者主体の支援）を尊重する。
・出勤してくる職員の時間がバラバラな

ので職員間の引き継ぎが上手くいかないので職員間の引き継ぎが上手くいかないので職員間の引き継ぎが上手くいかな

い
解決方法として・・・
引き継ぎノートを作りそれを全員が見やすい所におく。
と言った意見が出ました。

他のグループでもご利用者と保護者、職員との考えのずれや、職員間での引き継ぎミスと言った同じような意見が出たのと
・重度の障害を持ったご利用者の意思は？
解決方法として・・・

ご利用者になるべく多くの体験をしてもらい表情等の非言語の部分から読み取る。
午前中話された絵カード等のコミュニケーションツールを活用する。

・支援計画通りの支援が出来ているか分からない
解決方法として・・・
再度支援計画書を確認し、誰に対しての支援なのかを考えて行動を行なう。

と言った意見が出ました。
各グループで様々な意見や解決策が出、私が想像していない解決方法が出てびっくりしました。
今回の研修で「ご利用者主体の支援」といった、福祉の基本に関して考えさせられた良い時間でありました。今回学んだことを活かして今後の支援に取

り組んで行きたいと思えます。最後になりましたが、講義をしていただいた龍谷大学村井龍治先生をはじめ、京都知的障害者福祉施設協議会、京都府障害厚生施設協議会及び京都府社会福祉協議会京都府福祉人材・研修センターの方々、とても意義のある研修に参加させていただき有難うございました。



第38回京都知福協「幼児のつどい」を終えて

幼児のつどい実行委員長

社会福祉法人 白川学園／ひなどり学園 戸田 愛



▲パラバルーン演技

▶京都市消防音楽隊の演奏



去る10月2日、島津アリーナ京都（京都府立体育館）にて、京都市内にある児童発達支援センターの内、4つの単独通園施設に通う子ども達、保護者、職員、更に母子通園施設のごま園・ポッポから併せて12名を迎え、計400名近くが一堂に会し、「幼児のつどい」が開催されました。

当日は雨降りが予想されていましたが、幸い天候が大きく崩れることもなく、無事に開催することが出来ました。

開会式の中では、各園の園長先生による園のお名前呼びが行われ、それぞれの園の子ども達が、園長先生の呼び掛けに元気に応えてくれました。その後は、大型の参加型紙芝居、「みんなでぼん！」の読み聞かせを行いました。みんなで同じタイミングで手を叩き、その音が一つになることで、如何にたくさんのお友だちが同じ場所と同じ時間を共有しているのかという、一体感を感じることが出来ました。

次に、子ども達が大好きな「ようかい体操第一」の曲に合わせて元気いっぱい体操をして、メインの活動に向けての準備運動としました。

メインの活動では、「コロコロポン！ーボールであそぼうー」をテーマに、子ども達が大好きなボールを使った遊びのコーナーを各園が用意し、子ども達が各コーナーを自由に行き交いあそびました。

空の鳥幼児園は「玉入れ」のコーナー。箱やエプロンに動物の顔が付けられており、子ども達は動物さん達に次々とボールを食わせてあそびました。

洛西愛育園は「大型クーゲルバーン」のコーナー。仕掛けの上からボールを転がし、左右交互にボールが落ちていく様子を

見る10月2日、島津アリーナ京都（京都府立体育館）にて、京都市内にある児童発達支援センターの内、4つの単独通園施設に通う子ども達、保護者、職員、更に母子通園施設のごま園・ポッポから併せて12名を迎え、計400名近くが一堂に会し、「幼児のつどい」が開催されました。

当日は雨降りが予想されていましたが、幸い天候が大きく崩れることもなく、無事に開催することが出来ました。

開会式の中では、各園の園長先生による園のお名前呼びが行われ、それぞれの園の子ども達が、園長先生の呼び掛けに元気に応えてくれました。その後は、大型の参加型紙芝居、「みんなでぼん！」の読み聞かせを行いました。みんなで同じタイミングで手を叩き、その音が一になることで、如何にたくさんのお友だちが同じ場所と同じ時間を共有しているのかという、一体感を感じることが出来ました。

次に、子ども達が大好きな「ようかい体操第一」の曲に合わせて元気いっぱい体操をして、メインの活動に向けての準備運動としました。

メインの活動では、「コロコロポン！ーボールであそぼうー」をテーマに、子ども達が大好きなボールを使った遊びのコーナーを各園が用意し、子ども達が各コーナーを自由に行き交いあそびました。

空の鳥幼児園は「玉入れ」のコーナー。箱やエプロンに動物の顔が付けられており、子ども達は動物さん達に次々とボールを食わせてあそびました。

洛西愛育園は「大型クーゲルバーン」のコーナー。仕掛けの上からボールを転がし、左右交互にボールが落ちていく様子を

に、子ども達はとても喜んでいました。むくの木園は「ボールキャッチ」のコーナー。坂を転がってくるボールを上手にキャッチしようと、何度も列に並んで挑戦する子ども達の姿が見られました。

ひなどり学園は「ボールプール」のコーナー。たくさんの手作りボールが入れられたプールに浸かったり、周りを走るバスにボールを入れたりして、子ども達は楽しんでいました。

実行委員会では、それぞれの子ども達が参加できる工夫や、子ども達の待ち時間やどうすれば短くできるのか、また、子ども達だけでなく、親子で楽しめる時間となるよう、何度も話し合いを重ねてきました。

その結果、どのコーナーも職員の皆さんのアイデアが詰まった、素晴らしいものになったと思います。

今年度も午後から「京都市消防音楽隊」の演奏をお願いしました。演奏して下さった曲の中には、午前のプログラムで行った体操やパラバルーンで使用した曲も多く、他にも子ども達に馴染みのある曲をたくさん演奏して下さいました。また、隊員の方は、地震から身を守る為にはどうすれば良いのか等、寸劇も交えて子ども達にもわかりやすくお話しして下さいました。

今年度の幼児のつどいも、施設の枠を超えた良き交流の場となり、いきいきと楽しむ子ども達の笑顔溢れる、充実した時間となりました。

最後になりましたが、行事・文化部会の濱田部会長をはじめ、たくさんの方々にご協力を頂き、また、お忙しい中、京都市・京都府からもご臨席頂き誠に有難うございました。

今後、子ども達・保護者の方々が参加して良かった、と思えるような「幼児のつどい」を、皆で協力し合い、作り上げていきたいと思えます。

去る10月2日、島津アリーナ京都（京都府立体育館）にて、京都市内にある児童発達支援センターの内、4つの単独通園施設に通う子ども達、保護者、職員、更に母子通園施設のごま園・ポッポから併せて12名を迎え、計400名近くが一堂に会し、「幼児のつどい」が開催されました。

当日は雨降りが予想されていましたが、幸い天候が大きく崩れることもなく、無事に開催することが出来ました。

開会式の中では、各園の園長先生による園のお名前呼びが行われ、それぞれの園の子ども達が、園長先生の呼び掛けに元気に応えてくれました。その後は、大型の参加型紙芝居、「みんなでぼん！」の読み聞かせを行いました。みんなで同じタイミングで手を叩き、その音が一になることで、如何にたくさんのお友だちが同じ場所と同じ時間を共有しているのかという、一体感を感じることが出来ました。

次に、子ども達が大好きな「ようかい体操第一」の曲に合わせて元気いっぱい体操をして、メインの活動に向けての準備運動としました。

メインの活動では、「コロコロポン！ーボールであそぼうー」をテーマに、子ども達が大好きなボールを使った遊びのコーナーを各園が用意し、子ども達が各コーナーを自由に行き交いあそびました。

空の鳥幼児園は「玉入れ」のコーナー。箱やエプロンに動物の顔が付けられており、子ども達は動物さん達に次々とボールを食わせてあそびました。

洛西愛育園は「大型クーゲルバーン」のコーナー。仕掛けの上からボールを転がし、左右交互にボールが落ちていく様子を

に、子ども達はとても喜んでいました。むくの木園は「ボールキャッチ」のコーナー。坂を転がってくるボールを上手にキャッチしようと、何度も列に並んで挑戦する子ども達の姿が見られました。

ひなどり学園は「ボールプール」のコーナー。たくさんの手作りボールが入れられたプールに浸かったり、周りを走るバスにボールを入れたりして、子ども達は楽しんでいました。

実行委員会では、それぞれの子ども達が参加できる工夫や、子ども達の待ち時間やどうすれば短くできるのか、また、子ども達だけでなく、親子で楽しめる時間となるよう、何度も話し合いを重ねてきました。

その結果、どのコーナーも職員の皆さんのアイデアが詰まった、素晴らしいものになったと思います。

今年度も午後から「京都市消防音楽隊」の演奏をお願いしました。演奏して下さった曲の中には、午前のプログラムで行った体操やパラバルーンで使用した曲も多く、他にも子ども達に馴染みのある曲をたくさん演奏して下さいました。また、隊員の方は、地震から身を守る為にはどうすれば良いのか等、寸劇も交えて子ども達にもわかりやすくお話しして下さいました。

今年度の幼児のつどいも、施設の枠を超えた良き交流の場となり、いきいきと楽しむ子ども達の笑顔溢れる、充実した時間となりました。

最後になりましたが、行事・文化部会の濱田部会長をはじめ、たくさんの方々にご協力を頂き、また、お忙しい中、京都市・京都府からもご臨席頂き誠に有難うございました。

今後、子ども達・保護者の方々が参加して良かった、と思えるような「幼児のつどい」を、皆で協力し合い、作り上げていきたいと思えます。

京都知福協 風船バレーボール大会を ふりかえって

行事・文化部 部長
みずなぎ学園 施設長 濱田康寛



11月5日、今年も風船バレー大会を亀岡市の運動公園大体育館にて開催いたしました。

屋内での球技大会とはいえ、雨天より晴天がありがたいと願ってありましたところ見事な晴天に恵まれ、大会前には屋外の公園で昼食のお弁当を摂っておられる施設さんや、運動公園に隣接するコスモス園に咲き誇っている色とりどりのコスモスを眺めておられる参加者の方の姿も拝見し、気持ちよく大会を開始させていただきました。

今年は15施設17チームにエントリーいただいておりましたが、参加人数170名を超えておりましたので、大人数で参加いただいている施設の職員さんに施設を超えた混成チームの編成を提案させてもらったところ、皆さん快諾くださり、2チームの追加エントリーにより19チーム参加による大会となりました。
4ブロックに分かれての対戦、各ブロック1位通過の4チームによ



る決勝トーナメントという例年通りの進行でありましたが、チーム数が増えたことにより例年を上回る熱戦が繰り広げられ、ブロック戦の終了が午後4時、決勝トーナメントを終え表彰式を行ったのは4時半を過ぎておりました。表彰式に残ったチームだけでなく、参加いただいた選手の方々が勝敗にかかわらず笑顔で会場を後にしてくださいましたことが大会の成功を物語っていたのではないかと思います。

後になりましたが、混成チームの編成にご協力くださった施設の皆さん、そして、会場準備から試合の審判まで奮闘いただいた実行委員の皆さんに心よりお礼申し上げます。

いつも思うことですが、大会当日に集まり、様々な場面で臨機応変に動いてくださる実行委員の皆さんの力があってこそその大会です。来年もよろしくお願いたします。

京都縦貫道の整備が進み、会場へのアクセスが良くなったこともあり広範囲の地域から参加いただいた大会となりましたので、多くの方が、施設やご自宅に到着されるまでに日が暮れて、夜空の月を眺めながらの帰路だったのではないのでしょうか。

私も、171年ぶりとかの「ミラクルムーン」を眺めながら、気持ちよく帰路に就くことができました。皆さん、本当にありがとうございました。

試合結果

優勝 ● みずなぎ高野学園

準優勝 ● あけぼの学園りけい寮A

第3位 ● あけぼの学園八木寮





広報部員施設訪問記

社会福祉法人 亀岡福祉会 かめおか作業所

訪問者：西村文孝 (テンダーハウス)



施設外観

10月も終わりに近づいた秋の日に、亀岡市にある「かめおか作業所」を訪ねました。道中コスモス畑が目飛び込んできて、そこには花言葉のごとく、「優美」な世界が広がっていました。心を躍らせて到着すると、石田施設長が笑顔で出迎えてくださり、施設の成り立ちについてお話しをお聞きしました。

昭和53年当時、養護学校の卒業生の「働く場」がなく、地域からのニーズもあり西村直理事長が「亀岡共同作業所」を立ち上げられました。その後入所者が増え平成7年に「第二かめおか作業所」、平成14年には「第三かめおか作業所」を開所されました。また「働く場」だけでなく、「生活の場」であるグループホーム6か所、平成15年にはデイサービスセンターと居宅介護事業等を行われているホームヘルプセンター、そして平成23年には亀岡市からの委託により相談支援センターを開所されました。現在、法人全体で約120名の利用者さんがおられますが、石田さんは法人が大きくなった理由として「経営主導ではなく、地域の員



お菓子の袋詰作業▲

として、共に暮らしていく地域作りや地域からのニーズに沿った結果です」と話されています。地域の運動会やマラソン大会にも積極的に参加され、地域との関わりを大切にしておられます。また就労にも力を入れておられ、就労先としては地域の豆腐製造工場や寿司屋等があるそうです。月に一度、就労された方が集まって食事をする機会が設けられるなど、就労後のフォローアップにも丁寧に取り組んでおられます。

今回の見学させて頂いた「かめおか作業所」では、就労継続支援B型・生活介護の多機能型事業で約50名の利用者さんが働いておられました。最初に手作りのお漬物を笑顔で勧めてください試食させて頂きました。

口に運んでみるとシャキシャキした歯ごたえで、ご飯がすすむ美味しいお漬物でした。次に企業の下請け作業では、お菓子の袋詰め作業をされており、大量のお菓子を丁寧に袋に入れておられました。箱折り作業では障がいの特性に配慮し、落ち着いて作業できるように好きなキャラクターの絵を机の前に貼るなど、工夫されている様子が伝わりました。自主製品では革・布製品の製作をされています。それぞれの工程に分かれて作業しておられ、縫製の部署ではアンティークな10台ほどのミシンを使い器用に縫われていました。看板商品と話されていたブックカバーの布地を仕入れるため、大阪・船場の問屋街まで行かれているとか。デ



▲カラフルなブックカバー

昭和初期の新聞記事、カラフルな水玉模様など、一つひとつに大量生産にはない個性や存在感がありました。

どの作業班も、みなさん明るく生き生きと仕事をされているのが印象的でした。施設の理念である「障がいのある人が社会の主人公としてたくましく生きていく力の育ちを援助していきます」が、障がいのある人が地域の一員として共にくらししていく地域づくりをめざします。「多くの市民の期待と応援の中で設立された社会福祉法人亀岡福祉会・各施設・事業所を、障がいのある人たちの願いに応える地域の拠点として発展させていきます」を現場でしっかりと実践されているという感想を持ちました。

「働くことで社会や地域と繋がる」と熱く語られていた石田さんの言葉は、特に私の心に残りました。

最後に、お忙しい中取材に応じてくださった西村理事長を始めとする職員の皆様、丁寧に説明して下さった石田施設長、そしてにこやかに迎えてくださった利用者の方々の皆様、大変ありがとうございました。



▲手作りの製品の数々

シリーズがんばっています

花ノ木児童発達支援センター

おひさま

センター長：弓 削 マリ子



施設全景



指導訓練室



遊戯室



個別課題

平成26年4月、亀岡市の花ノ木医療福祉センターに併設して、花ノ木児童発達支援センターが新築施設として整備されました。センターの実施する事業の内、児童発達支援事業（就学前児の母子通園）は新名称「おひさま」です。

新施設は従来の本館での療育教室ではスペースの関係上、多数の待機児童がでたことから計画されたもので、一日定員は10名から20名に増えています。鉄骨造り2階建てで、療育を行う指導訓練室4室、個別指導を行う個別課題ルーム、遊戯室、保護者室などを備えて全体にゆったりとしています。京都産の木材で床、壁、扉、収納など全体が内装された温かな雰囲気、子どもたちも落ち着いて過ごせています。エレベーターボタンの目隠し扉やクッションで覆われた遊戯室の腰板、療育スタッフ手描きの絵の部屋マークなど、創意をこらした建物となりました。総面積は1122㎡です。

「おひさま」では療育員と心理士



療育の様子

を中心に、併設の花ノ木医療福祉センター発達外来の医療スタッフ（小児科・精神科・PT・OT・ST）との連携もしながら、子どもの課題にあった活動を通して成長を促すこと、子どもの特徴の理解を通して保護者が子育てに自信を持てることを目標に、日々療育を行っております。亀岡市内の発達に何らかの課題がある幼児が主な対象ですが、医療機関を併設している特長から南丹市、京丹波町を加えた南丹地域の重症心身障害児や運動発達に課題がある乳幼児まで幅広く対象とし、週1回、母子で通園されています。通園児の7割をしめる自閉症スペクトラム児について、自閉症特性に合わせた構造化、視覚支援、PECSなどコミュニケーション支援の実践、年長児の高能自閉症スペクトラム児の療育にも力を入れています。年長児については、小学校入学後にも継続



療育の様子

的な支援が受けられるように、学校へ渡すことを目的とし、子どもの特徴や支援をまとめた「サポートブック」を保護者が作成する取り組みをしています。また、最近では保護者支援にペアレントトレーニングの視点を盛り込み手応えを感じています。

今後は、児童発達支援センターとして、児童福祉法に規定された保育所等訪問療育事業や相談支援の充実等、地域支援の役割の充実に求められてくることとなります。子どもも親も、周りで見守る人も、皆がいきいきと過ごせる地域づくりの礎となるよう、これからもより良い支援を模索しながらセンターも成長していきたいと思っております。

地域支援部会主催「よりよい支援を目指して」

～一人仕事をされている世話人・ヘルパーのためのスキルアップ研修会～ Vol.2

府内全域から19名が参加され、11月14日に開催されました。参加者からは、「他の方の話が聞けて良かった」「自分が気づけていない部分に気づいておられる方もおられ、視点の向け方なども勉強になった」「あらためて障がいへの理解を深めることの大切さを痛感した」などの意見が聞かれました。



▲Ⅰ.実践報告



▲Ⅱ.講義



▲Ⅲ.ワーク



▲シェアリング



▲まとめ

知ってほしい！ 『ジョブネット』の取り組み

京都知福協はジョブネット参画団体です

きょうと介護・福祉ジョブネット 若者魅力発信チーム

座長 能政 夕記 (HOLYLAND 主任)

一般的に福祉業界は「給料が安い」「精神的にきつい」「不定休で働きにくい」などマイナスのイメージをもたれることが多く、業務内容も十分に知られていない現状があります。最近の就職フェアなどをみてみますと、来場者は少なく、年々、新卒学生の人材確保が難しくなってきています。

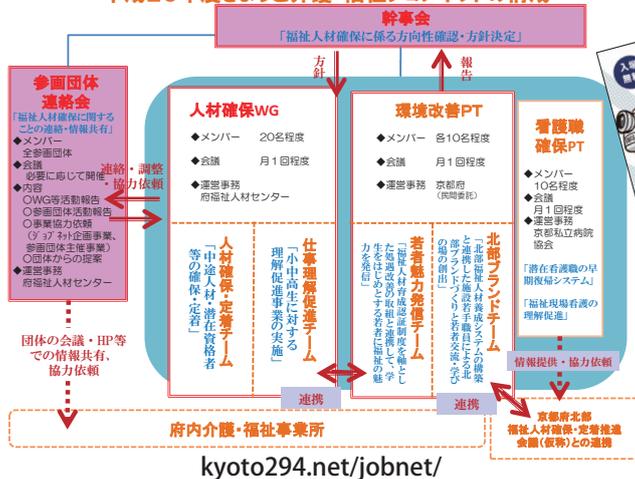
きょうと介護・福祉ジョブネット・若者魅力発信チームはこの現状を改善するために、現場の若手職員が集まり活動を行っています。

きょうと福祉人材育成認証制度を基盤として、新卒学生等の若者を中心に福祉の魅力を伝え、福祉業界のイメージアップを図ること、職員自らが、職場の環境改善を意識できるようになることを目的としています。

10月22日は『業界魅力発信を担う若手職員研修「学生への魅力発信を効果的にするには、何をどのように伝えれば、共感が得られるのか」という内容で20代を中心とした若手職員に、福祉の魅力を発信する必要性について考えていただきました。

来年2月11日は大谷大学で『スマイルフェスタ』京都の中心で感動をさげぶ！』を開催します。メインイベントは人

平成26年度きょうと介護・福祉ジョブネットの構成



との繋がりで感動したことを映像化し、そのエピソードを語る感動コンクールです。このイベントを通して、福祉職は人とのつながりを強く感じ、感動がある仕事であることを多くの人に知っていただきたいと思っています。福祉の魅力を再確認したいと思っておられる方や、身近で福祉の仕事に興味を持っておられる方がおられましたら是非、イベントにお越しください。

編集後記

11月中旬、地元にある天空の竹田城跡に行ってきました。

早朝のマイカーでの入山禁止となっているので、シャトルバス乗り場のイオンの駐車場まで車で行きましたが、他県ナンバーの車が百台以上駐車されていました。バスに乗り込みますと、超満員に詰め込まれて出発しました。登山口でバスを降り、歩いて城跡を目指しましたが、夜明けまでに到着したいと、急ぎ足で歩きました。こんなに山道を歩いたのは、中学の遠足で同じ竹田城跡に行った時以来です。お蔭様で、雲海と日の出も見ることが出来、その素晴らしいことに感心しました。ブームになっているのか、むかしと比べ人の多さにはびつくりしました。

障害者に対する環境も、昔とは大きく変わってきていると思われま。障害者自立支援法が、制定され、措置から支援に、区分では、障害認定区分から障害支援区分に変わり、障害者の呼び方も、「知恵おくれ」から「精神薄弱」に、そして現在は、「知的障害」となっています。地元の観光地と障害者福祉の変化に時代を感じます。



(きょうと)の杜 梶原泰司